



# 第 1311 回例会報告

平成25年4月4日(木) 晴  
【4月は識字率向上月間】

## 会長挨拶

会長 蒲地整志

## 責任

以前、信濃毎日新聞のコラムに載っていた記事です。

作家の井上ひさし氏は「人間の責任は5つある。ごっちゃにしてはいけない」と言って以下の5つの責任を掲げました。

1. 神の前での宗教的責任
2. 社会の前での社会的責任
3. 法の前での法的責任
4. 良心の前での道徳的責任
5. 自己の前での自己責任

責任と言っても色々ある。ごっちゃにしないで、一つ一つ独立させて考えなさいと言う事だと思います。

最近の日本人は、どうも大きな声で権利の主張はするが、責任を果たすとか、義務を負うと言う事が欠如している様に思えます。

最近の日本教育に問題があるのかも知れません。

古来より受け継がれてきた日本人の道徳観とか倫理観は崇高なものです。

「日本人の心」は世界に通用する倫理観です。

ロータリーの職業奉仕の理念や、四つのテストの考え方も、この「日本人の心」に通ずるものがあります。

5つの責任を踏まえながら、ロータリー活動をしたいものです。

## ◇幹事報告◇

### 【受領文書】

- 1) 薬物ダメ絶対のPR誌
- 2) 藤ヶ崎記念会館便り

## 第 1311 回例会

クラブ会報委員会担当例会

「諏訪の近代建築探訪」

クラブ報委員会 三村昌暉委員

3月20日諏訪市の文化センターに於きまして、茅野市出身で東京大学名誉教授の藤森照信氏、

<p>■出席報告</p> <p>会員数 35名 出席対象 33名 出席者数 26名 出席率 78.8% 前回修正 87.9%</p>	<p>■ニコニコBOX</p> <p>22名 24,000円 累計 985,000円 目標額 130万円 達成率 75.7%</p>
<p>■今週のことば</p> <p>外孫二人、諏訪市南部中学校、伊那市高遠中学校に入学しました 溝口幸二</p>	<p>■次回のプログラム</p> <p>4月18日 家族夜間「お花見」例会 長地 平福寺 午後6時受付 クラブ奉仕委員会</p>



建築史家で文化庁勤務の堀勇良氏、工学院大学教授で日本建築史、歴史的建造物の保存修復が専門の後藤治氏らが参加して、諏訪市文化センター建築50周年記念講演&トーク「諏訪の近代建築の魅力を探る」という催しが行われました。近代建築とは、戦前に建てられた建築物のうち、西洋の建築様式や技術を用いた建築物や、西洋風の意匠を取り入れた建築物を指します。戦後建てられた物は、現代建築と呼び区別しています。

諏訪は片倉館(国重要文化財)をはじめとする多くの近代建築が現存する地域であります。これらの建造物が、街の宝物として観光資源になり得るのではないかと考えております。



片倉館の設計は、台湾総督府在任中に台北賓館(旧総督官邸)等数多くの名建築を手がけた、森山松之助です。国の登録有形文化財の指定を受けた、諏訪湖ホテル迎賓館・菊の間や、諏訪市の旧富士銀行ビルも彼の設計によるものです。

諏訪市文化センター(旧北澤会館)は現代建築ですが、今年度建設50年を迎え、諏訪市は諏訪の貴重な文化遺産と考えております。

設計は、過去の建築様式でしかなかった和風の意匠である数奇屋建築を独自に近代化した建築家、吉田五十八です。現代の日本旅館の大広間は、ほとんど彼が考案した建築様式を取り入れているくらい後年に影響を残しました。

旧北澤会館は和風様式をコンクリートの現代建築に融合させた独創的な発想が随所に活かされ

ており、日本の近代建築史において高く評価されています。

又、同館の緞帳は、現代日本の巨匠二人による作品で、これだけでも貴重な観光資源になると考えられます。

一つは東山魁夷による「清暁」と題されたもので、春の訪れを伝え、夜明け前の澄んだ大気と、湖と白樺が描かれています。今製作すれば数億円の巨費が必要といわれています。

東山魁夷は国民的日本画家と呼ばれ、長野県にも多くの代表作が寄贈され信濃美術館の東山魁夷館に常設展示されています。

もう一つは、日本芸術院会員で文化勲章受章者の、杉山寧の緞帳「昇る陽」です。日輪と曙光に、朝雲と連山を配したもので、緞帳の日輪は、金糸で浮き出させ曙光を如実に表しています。

この二つの緞帳を含む、旧北澤会館も文化遺産と考えれば貴重な観光資源になり得るのではないのでしょうか。

近代建築を含むこれらの建造物を、街の宝物としてどのように生かしていくか、取り組んでいきたいと思っております。



「三村貴金属店」は、国指定登録有形文化財(建造物)に指定されていて、諏訪市の各種パンフレットに記載されています。